〈ふたば病院の理念〉

「和」のこころを「恒」に以って、みなさまに安心して信頼される病院を築いてまいります。

〈基本方針〉

1. 私たちは、人権の尊重と倫理の遵守に基づいた医療を提供いたします
2. 私たちは、相手（接する人）の気持ちを思いやり、尊重するように努めます
3. 私たちは、日々研鑽し、医療サービスの向上に努めます
4. 私たちは、医療に携わる人材の育成に努めます
5. 私たちは、地域精神医療の中核的役割を果たし、地域に貢献できるよう努めます
6. 私たちは、持続可能な医療サービスを提供できる体制を構築するよう努めます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な開発目標(SDGs) とは，2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。

3 すべての人に健康と福祉を

2040年までに、主要な疾患を予防・克服し、100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサスティナブルな医療・介護システムを実現する。

8 働きがいも経済成長も

働き方改革による企業の成長、働きがいのある企業をめざす。

11 住み続けられるまちづくりを

子どもから高齢者まで健康不安なく人生を楽しむための精神医療・介護システムをめざす。

TOPICS

法人内特別表彰

和恒会は、現在、8名の外国人介護技能実習生を受入れており、介護指導員のもと介護技術の取得に励んでおられます。この度、技能実習生の教育・評価に携わり、介護技術の研鑽に努めた職員に対し、感謝の意を表し、表彰いたしました。

TOPICS

心のオアシスこかげ４月上旬開院予定

4月上旬、呉市初となる思春期専門クリニック「こころのクリニックこかげ」を呉市西中央に開院予定。発達障害等の診療に携わっている坂尾良一先生が院長を務める。「チーム医療としてスタッフ個々の個性を生かし、患者様が過ごしやすい雰囲気作りに努めたい」と語る坂尾先生。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。新年を迎えるたびに「よし、今年は “〇〇” しよう！」と意気込みますが、結局、何も着手してきませんでした。今年こそは！という思いを込めて、2022 年のキャッチフレーズを寅年だけに「トラ（寅）イ」と決めました。本年は診療報酬改定があり、いよいよ 2040 年に向けた医療・介護・福祉の大変革時代に突入していきます。そのような中で和恒会は「不易流行（ふえきりゅうこう）」の考え方を軸とし、地域の皆さまから求められる新規事業や取組みの実現に「トライ」していきたいと思います。本年もどうぞ医療法人社団和恒会をよろしくお願い申し上げます。（市川）

※不易流行とは：変わらないものを基本（大切）にしつつ、状況に応じて柔軟に変えていく（変化を取り入れていく）こと

医療法人社団 和恒会

日本医療機能評価機構認定病院

TEL.0823-70-0555　FAX.0823-70-0557

〒737-0143 広島県呉市広白石4丁目7-22

和恒会 検索　https://wakokai.jp/

- ふたば病院
- 介護老人保健施設 パナケイア
- 高齢者複合福祉施設 ふたばの街
- 特定施設入居者生活介護 ふたばハイツⅡ
- 短期入所生活介護事業所 ふたばの里
- 訪問介護事業所 ふたば
- 居宅介護支援事業所 ふたば
- 共同生活援助 ふたばの丘
- 共同生活援助 さくらんぼ
- 地域活動支援センター ふたば
- 呉市川尻安浦地域包括支援センター
- 広島県認知症疾患医療センター －呉市・江田島市－

ほっとNEWS

WAKOKAI

私たちの広を誰もがほっとする、そんな街に。

2022

2022 New Year vol.62

特集

和恒会が取り組む 未来につながるこれからの地域医療

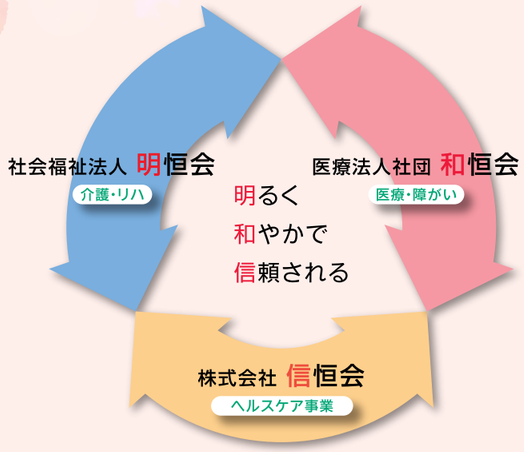
和恒会が取り組む　未来につな がるこれからの地域医療

医療法人社団 和恒会
理事長
織田一衛

■プロフィール
広島大学医学部卒業。2014年医療法人社団和恒会理事長就任。臨床精神医学、司法精神医学等を専門とする。精神保健指定医、精神保健判定医、精神科専門医、臨床研修指導医など多数の資格を有している。

時代とともに変化していく新たな存在意義を確立していきます。

2012 年、医療法人社団和恒会（以下「和恒会」という。）創設者森川龍一前理事長が急逝されて 8 年の歳月が流れました。森川理事長の経営理念は「広ホットタウン構想」であり、目標は「医療と介護の一体的提供」でした。この理念・目標は 2018 年度診療報酬改定で提示された「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」に他なりません。改めて、精神科病院であるふたば病院の「パーパス（存在意義）」は、どこにあるのでしょうか。申し上げるまでもなく、精神保健福祉法の目的である「精神障害者の医療及び保護を行い、社会復帰の促進及びその自立と社会経済活動参加の促進」にあります。その実現のために、専門職による多職種協働精神科チーム医療を推進して参りましたが、呉医療圏の精神科医療需要の大幅減少に伴い、この「パーパス」が失われつつあります。実際のところ、2016 年から 2021 年にかけて、ふたば病院の入院患者数は 10%減少し、外来患者数は 40%減少しております。かかる状況において、ふたば病院の SDGs(Sustainable Development Goals) は、髙見浩院長先生が推し進めておられる認知症疾患医療基幹病院として「認知症地域包括ケアシステム」を構築することにあります。今後は精神科医療の更なる拡充が必要となります。なぜなら、「多元的全世代共生型社会」を目指している我が国において、「障害のある子どもの発達しつつある能力の尊重、及び障害のある子どもがそのアイデンティティを保持する権利の尊重（国連障害者の権利条約）」が精神科医療の新たな「パーパス」として求められているからです。ところで、日本が直面している急速な高齢化の進展は、疾病構造の変化を通じて、必要とされる医療の内容に変化をもたらしてきました。医療は、かつての「病院完結型」の医療から、地域全体で治し支える「地域完結型」の医療に移行しております。すなわち、日常生活圏域に、予防・医療・介護・生活支援・住まいを組み合わせ、これらの整備を、包括的、継続的に行われる「地域包括ケアシステム」として、推進していくことが求められています。介護老人保健施設パナケイア、および、その他の介護事業やサービス付き高齢者住宅のような「住宅事業」にも参入してきた和恒会の「パーパス」はここにあります。呉医療圏の介護需要は、2025 年までは増加すると推計されています。実際のところ、2016 年から 2021 年にかけて、和恒会の介護施設入所者総数は 25%増加し、通所者総数は 27%増加しています。超少子高齢化という大きな流れの中で、病床稼働率の低下や、診療報酬のマイナス改定が続き、支出をカバーするだけの伸びが見込めない現状を踏まえ、病床を削減し、医療従事者もそれに合わせて減員するのは、病院にとっては自殺行為であると言われてきました。このような状況にあるからこそ事業を拡大して専門性の高いチームを維持し、もって医療の質を担保しなければ、選ばれる医療法人として成立しえないからです。「包摂的かつ持続可能な経済成長（＝従来の収支モデルを描きなおすくらいの質の高い経営）及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する（＝質の高い医療・介護を維持する）」という SDGs を達成しなければ和恒会の事業は存続しえないでしょう。そのために、これまでの法人の枠組みをパラダイムシフトさせます。精神科医療・障害事業（質の高い医療）を担う医療法人社団和恒会に加えて、保健・社会参加を促すリハビリテーション・科学的裏付けのある自立支援介護（質の高い介護）を担う社会福祉法人明恒会を創設し、経営統括・ヘルスケア事業・地域交流事業（質の高い経営）を担う株式会社信恒会を 3 本の矢として合わせ「ヘルスケアほっとたうんグループ」として展開して参ります。かつて、森川理事長が提唱されていた理念・目標に加えて、我々のコンセプトは「地域包括ケアシステムを深化させ多元的全世代共生型社会を目指す」ことであり、底を流れるテーマは「明るく和やかで信頼される (Cheerful,Harmonious & Reliable)」ことにあると考えております。



地域に信頼される地域医療を目指して新たな取り組みを行う和恒会

地域に安心して信頼されるグループへ進化する為に、３本の矢に見立てた 3 つの事業で地域へ貢献していきます。新たに児童思春期対象クリニック・地域密着型介護老健福祉施設・ヘルスケア事業を立ち上げることで、地域へ貢献していきます。

3 すべての人に健康と福祉を

◎ふたば病院病床機能分化
◎認知症治療・介護・リハビリ・生活支援の在り方検討
◎パナケイア在宅復帰超強化型算定
◎科学的裏付けのある自立支援介護
◎働き方改革（人事制度、人事考課制度）の推進
◎事務処理の効率化
◎ロボット・AI・ICT等の実用化推進
◎ふたば病院日本医療機能評価機構認定更新

8 働きがいも経済成長も

◎コスト削減・ファシリティマネジメント
◎ホームページ、採用、ブランディング戦略、ワークシェア、キャリアアップ
◎組織力強化研修
◎前方・内部・後方連携の構築
◎思春期専門クリニック新設
◎保険外事業
◎社会福祉法人設立
◎外国人介護人材確保育成事業推進

11 住み続けられるまちづくりを

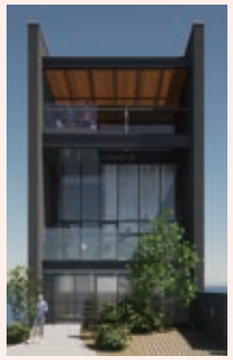
◎子どもから高齢者まで健康への不安なく人生を楽しむための精神医療・介護システムをめざす。
◎地域精神医療の中核的役割を果たす。
◎医療に関わる人材の育成に務める。
◎地域精神医療の中核的役割を果たす。
◎持続可能な医療サービスを提供できる体制を構築する。

ふたば病院
名誉院長
坂尾良一

■プロフィール
広島大学医学部卒業。広島市児童総合相談センター（現：広島市こども療育センター）、加計町国民健康保険病院（現：安芸太田病院）、広島大学病院、NHO賀茂精神医療センター（副院長、院長）を経て、2020年医療法人社団和恒会理事、ふたば病院名誉院長に就任。

個性を見極め長所を伸ばす
患者様の生きやすい道を一緒に模索します。

目に見えて変化がわかる身体の健康に比べて、一見わかりにくい心の健康。メンタルヘルスケアを担うクリニックが少ないのが現状です。これまでたくさんの患者様と向き合ってきましたが、みなさん特別な治療を行わずとも、自分の事を知ってくれている、関心を持ってくれているという第3者の存在を知らせてあげるだけでも気持ちが軽くなっているように感じます。私は医師として〝治してあげる〟というのはおこがましいように感じています。叱咤激励でストレスをかけるのではなく、一人ひとりの個性を見極めるコーディネーターとしてその人の〝いいところ〟を単純に褒めて自主性をのばし、一緒にうまく生きやすい道を模索していきたい思っています。また、ふたば病院のような専門的なクリニックの充実化はもちろん、学校や地域の方々など行政を巻き込んでみんなが関心を持てる環境づくりも大切だと考えています。



医療法人社団和恒会は思春期専門クリニックを開設

４月上旬、呉市初となる思春期専門クリニック「こころのクリニックこかげ」を呉市西中央に開院します。従来の診察だけでなく、1Fにコミュニティスペースを設け、患者以外でも気軽に利用できるスペースの提供を予定しています。また、地域の学生とコラボして、全世代の方が参加できる共生カフェや様々な体験教室等の開催を構想しており、地域に開放した空間の創出をデザインします。行政や学校関係者など患者様に関わる全ての人が集まり、情報の共有ができるような会議室も設置する予定です。当事者や保護者の方だけでなく、様々な立場の方に気兼ねなく活用してほしいと考えています。

ふたば病院
院長
髙見 浩

広島大学医学部卒業。国立呉病院（現：独立行政法人国立病院機構呉医療センター）、広島市精神保健福祉センター、ふたば病院、広島大学病院、NHO 賀茂精神医療センター等を経て、2009 年医療法人社団和恒会理事、ふたば病院副院長に就任。2015 年ふたば病院院長に就任。

一人ひとりのバックグラウンドを把握して
適切な医療を提供していきたい。

医療を提供する上で心掛けていることは、高齢者の多い呉地域の特性やニーズを把握し、適切な医療を提供していく事です。また何よりも大切な事は患者様との強固な信頼関係を築いていくことです。医療行為で終わらず、治療後も地域医療施設としっかり連携をとって患者様の生活のサポートをしたいです。患者様一人ひとりの生活の事情が違えば、同じ症状の方でも必要とするサポートが大きく異なってきます。一方通行な押し付ける医療ではなく、同じ視点に立って一緒に歩んで行ければと思っております。

統括看護部長兼
介護事業本部長
川本真弓

呉市医師会看護専門学校卒業。1994 年ふたば病院病棟師長、2003 年介護老人保健施設パナケイア総師長、2007 年医療法人社団和恒会理事、ふたば病院看護部長兼副院長に就任。その後、2020 年医療法人社団和恒会統括看護部長に就任。

時代に合わせた新規事業に向け
福祉に対する知識を深めていきたい。

新型コロナ感染症は2022年に入ってもいまだに変異株の流行などで予断を許さない状況です。その中で医療と福祉を担っている和恒会は地方の方達の拠り所としてあり続けるように、持続可能な経営を目指しています。今後、少子高齢化が加速する2025年、高齢世代がさらに高齢化する2040年に向けて地域にとって必要な多元的社会に適応する福祉事業を展開する必要があります。その為にも、今年は新しい事業展開に向けて私自身多くの事を学び福祉に対しての知識を深める為にも努力していこうと思います。

介護老人保健施設
パナケイア施設長
石井孝二

自治医科大学医学部卒業。広島県職員として県立広島病院で初期研修後、総合病院庄原赤十字病院、県立瀬戸田病院（現：尾道市立市民病院附属瀬戸田診療所）を経て、2010 年ふたば病院内科医として就職。2017 年医療法人社団和恒会理事、介護老人保健施設パナケイア施設長に就任。

新しい変化を柔軟に受け入れ
より良い介護の現場を目指します。

この1年の変化としては昨年1月より当施設での外国人就労者の勤務、実習が開始になりました。ミャンマーとベトナムから6名来られて介護職員として働いております。みなさん仕事に対し真摯に取り組んでくれています。6月からは電子記録システムをスタートしました。ＰＣやタブレットの操作から開始し、最近ようやく軌道に乗ってきました。また12月には老健区分を「加算型」から「在宅強化型」へ類上げし、老健としての機能強化を図りました。今後も厚生労働省が主導する科学的介護を実践し、より良い介護を追求していきます。